

コウノトリと共生する地域づくりフォーラム等の開催について

ふるさとひょうご記念貨幣（地方自治法施行60周年記念貨幣）がコウノトリを題材として平成25年1月頃に発行されることを記念して、コウノトリの野生復帰や人と自然が共生する地域づくりへの理解を深めるためのフォーラムを開催します。

- ◆開催日：平成24年10月19日（金）・20日（土）
- ◆場所：さんとう緑風ホール（朝来市山東町楽音寺95）
- ◆内容：1日目－10月19日（金）コウノトリ放鳥拠点での受入式典の見学 9:30～11:30
コウノトリの野生復帰に関するシンポジウム 13:00～16:30
『コウノトリがやってきた～野生復帰と自然再生～』
- 2日目－10月20日（土）コウノトリと暮らす地域づくりフォーラム 13:30～16:00
『コウノトリと地域のつきあい方』

*詳細は、コウノトリの郷公園ホームページをご覧ください。

平成24年度 特別公開のご案内

普段非公開としている「コウノトリ野生化ゾーン」を特別に公開します。飼育の状況や馴化訓練中のコウノトリの様子をご覧ください。また、ガイドウォークや色々なコウノトリの餌生物等を描いたコウノトリの郷公園特製バッチャがもらえるスタンプラリーも行います。是非、ご家族そろってお越しください。

- ◆公開日時：平成24年10月20日（土）・21日（日）午前10時～午後3時
（但し、開園時間については平常通り午前9時～午後5時です）
- ◆入場料：無料 *詳細は、コウノトリの郷公園ホームページをご覧ください。

鶴見カフェのお知らせ

郷公園の研究員等とコウノトリについて気軽に話しあう鶴見カフェを、毎月第3日曜日の午後4時から豊岡市中央町のサンストークアベニュー内「なごみ茶屋」で行っています。
（飲物・ケーキ代500円程度が必要です。事前申し込みも受け付けています。詳しくは当公園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。）

平成24年度 定例観察会「ガイドウォーク」のご案内

毎月第3土曜日の午後1時30分から、ガイドウォークを行っています。
園内を歩きながら、生き物にやさしい施設の工夫や環境（コウノトリ育む農法）などの案内、園内の生き物観察、コウノトリの話等をしていきます。午後1時15分から正門前の掲示板横で受付しています。歩きやすい服装でお越しください。事前申し込みも受け付けています。詳しくは当公園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。

コウノトリの個体数 (H24. 8. 31 現在)

1 飼育コウノトリの個体数

区分	オス	メス	不明	計
県立コウノトリの郷公園	28	35	2	65
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	19	15		34
計	47	50	2	99

2 野外にいるコウノトリの個体数

区分	オス	メス	不明	計
放鳥コウノトリ	7	10		17
野外繁殖により増えたコウノトリ	12	26	5	43
野生個体		1		1
計	19	37	5	61

コウノトリ通信に関するご質問・ご意見等がありましたら下記までEメール又は電話等でご連絡ください。

問い合わせ先
兵庫県立コウノトリの郷公園
〒668-0814 豊岡市祥雲寺字二ヶ谷128番地
TEL: 0796-23-5666
FAX: 0796-23-6538

E-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp
開園時間 : 9:00～17:00
休園日 : 毎週月曜日（休日に当たるときはその翌日）・12月28日～1月4日

コウノトリ通信

(題字：山岸哲園長)



兵庫県立コウノトリの郷公園
平成24(2012)年9月1日発行

No.3

コウノトリを軸にした自然とのかかわり

兵庫県立コウノトリの郷公園 田園生態研究部 研究員 菊地直樹



写真1 撮影：西村英子氏（豊岡市）

ここに一枚の写真があります（写真1）。田んぼのなかで、人が何か作業しているようです。作業しているのは何人でしょうか？手前に写っているのは、人ではないようです。黒くて長くちばし。コウノトリです。正解は三名です。以前、私はコウノトリに関する記憶を聞き取る調査を行ったことがあります。1918年生まれの男性は、このようにお話しされました。

『田の草時分、わしらが学校から帰って昼飯食って休む時分ですけども、村の人は仕事からみんな帰って昼飯食いに帰った。その暑い最中に、もう田の中に入ってそのシャツ姿であのもんですわ。あちこちに田の草をとっとる人がある。「ほう、この暑いのに、まだ昼せんと何きばとんなるん」だろうと、見行くちゅうと、そうじゃない。あのツル（コウノトリ）が田んぼの中歩いてほんでこう餌を探して歩いとるのが、ちょうどあの半分上が白だもんですでえ。シャツ姿で田の草取っとるように見えるんですわあ。』

確かに、コウノトリは田んぼの中にいる人に見えなくもありません。人もコウノトリのように見えてきます。この写真に象徴されるように、コウノトリと人はお互いの生活域が重なる動物同士です。言うまでもなく田んぼは、お米を収穫するために人が作ってきた環境です。そこでは、お米だけではなく、色々な生き物が命を育んでいます。ドジョウ、カエル、バッタ、そしてコウノトリ。人が手を入れた環境を生活の場とするコウノトリは、人に近い「里の鳥」だといえるでしょう。

このように考えると、コウノトリを野生に戻すことは人と自然のかかわりを豊かなものにしていく取り組みであることがわかります。但馬地方では、コウノトリを野生に戻すことを軸に、人と自然のかかわりを取り戻す色々な取り組みがすすめられています。

おいしいお米と多様な生き物を育むことを目指した「コウノトリ育む農法」が広がっています。農法に取り組む農家の人たちからは、生き物がある風景が復活したことが嬉しい、田んぼの中の生き物に目が向くようになったというお話を聞きました。コウノトリが自分の田んぼに飛んできたなら、やる気が出てくるという方もいます。意外なことに、農家の人にとっても田んぼの生き物は新鮮なのです。

市民も色々な活動をしています。野外のコウノトリを観察する市民たちのなかには、連日のように記録をとる方もいます。コウノトリの餌場となる湿地づくりに汗を流す市民もいます（写真2）。コウノト



写真2 湿地づくりをしている市民

りがどのような環境を好むのかを観察しながら、絶えず手を加えていきます。あまり機械に頼ることができないので、重労働です。流した汗は、生き物が増え、コウノトリが飛んでくることで、喜びに変わっているようです。

日本海に面した田結という小さな村に、コウノトリが飛来しました。当時、この村の田んぼはすべて放棄されていました。村人たちは、こう言います。「コウノトリによ選んでもらったのう」と。村が中心となって、市民や行政、研究者が参加しながら、放棄した田んぼを湿地として再生する取り組みが進められ、コウノトリが降り立っています。

コウノトリを軸に、人と自然のかかわりが少しずつ豊かなものになってきています。コウノトリには、人と自然のかかわりを変える力が備わっているかのようです。

野外コウノトリの繁殖状況図

今年の野外コウノトリは、8ヶ所で繁殖し6ヶ所で過去最多の14羽が巣立ちました。以下に繁殖状況を記します。



コウノトリ野生復帰グランドデザインより (一部抜粋)

【目標設定～短期目標「安定した真の野生個体群の確立とマネジメント」～】

(2) 給餌からの段階的脱出

現在の野外個体群は、個体維持と繁殖のための餌を給餌に依存しており、自活が充分できていないことから、真の野生個体群とは言い難い。給餌からの段階的脱出を図ることが必要である。なお、現段階では、野外餌量の過不足及びこれと給餌への依存の関係が明らかでないことから、以下のような土木的構造改善と給餌操作の実験的試みを同時並行的に行う中で、適切な方法を取捨選択していく。

- ① 西公開ケージにおける飼育個体に対する給餌法の変更
- ② 特定ペアに対する給餌の中止あるいは給餌量の実験的操作
- ③ 現在の採餌場所である水田や河川でのコウノトリからみた餌の得やすさを明らかにし、生態学的発想に基づく餌環境の構造改善を実験的に図る。具体的には特定の水系を選び、河川から水田まで魚類を中心とする水生動物が自由に往来でき、かつそれぞれの餌動物個体群を十分量維持できるように、繁殖や捕食回避の場所を計画的に設置する。この際、景観レベルでみた水系内の湿地生態系の保全・再生なども効果的に取り入れる。

*このグランドデザインは、コウノトリの郷公園ホームページよりダウンロードできます。

郷公園で確認したいきもの (7月1日～8月31日)

<p>[貝類] カワナ マジミ マルタニシ</p> <p>[クモ類] アシナグモ イエオニグモ キンメツギゴミグモ コガネグモ ゴミグモ サツマミダマシ ジョロウグモ シロカネイトウロウグモ スグロオニグモ トゲグモ マジロハエトリ ワキグロサツマミダマシ</p> <p>[甲殻類] アメリカザリガニ スシエビ ミナミヌマエビ</p> <p>[魚類] オイカワ カマツカ カワムツ カワヨシノボリ タイリクバラタナゴ</p>	<p>タモロコ ドジョウ トンコ ナマス フナの仲間 ムキツク メダカ モツゴ</p> <p>[昆虫類] アブラセミ ウスバヒガ(幼虫) ウチワヤンマ オオイトトンボ オオゴキブリ オニヤンマ カラスアゲハ キアシナガバチ キイトンボ キチヨウ クマゼミ クルマバツタ クルマバツタモトキ クロタマムシ クワガタの仲間 ケンシホタル コイムシ コシホソヤンマ(ヤコ) コバネイナゴ シオカラトンボ</p>	<p>シオヤトンボ ショウジョウトンボ ショウジョウバツタ タイコウチ タマムシ ツクツクホウシ ツマクロイナゴ トサマバツタ ニイニゼミ ハグロトンボ ハンミョウ ヒグラン ミンミンゼミ モノサシトンボ ヤマトアシナガバチ</p> <p>[両生類] ウシガエル ツチガエル トノサマガエル ニホンアカガエル ニホンアマガエル モリアオガエル(卵塊)</p> <p>[鳥類] アオサギ イカル カルガモ カワラヒワ キビタキ</p>	<p>コウノトリ(野生) コケラ サンバ サンショウクイ スズメ セグロセキレイ ダイサギ チュウサギ ツバメ トビ ハシホソガラス ヒヨドリ ホオジロ ヤマガラ</p> <p>[哺乳類] ニホンイタチの仲間(糞) ニホンイノシシ(土耕跡) ニホンジカ</p> <p>[爬虫類] アオダイショウ クサガメ シマヘビ ニホンシガメ ニホンカナヘビ ニホントカゲ ヤマカガシ</p> <p>《木本》 キンシバイ クサキ コマツナギ タラシ ネムキ</p>	<p>[植物 / 主に 開花中のもの] 《草本》 アメリカアゼナ イトヌヒゲ イワニガナ オオカワジシャ オツチカタバミ カタバミ キツネノマゴ コゴマヤツリ シロツメグサ タカサブロウ ダントホロキク トクタミ ニガナ ニホニンヌヒゲ ネジバナ ヒメジオン ミズヒキ ミヅカシ ヤハスソウ ヤマホタルブクロ</p> <p>《木本》 キンシバイ クサキ コマツナギ タラシ ネムキ</p>
--	--	--	---	--

